

日中経済交流研究会新聞

日中経済交流研究会

(株)電研社・(株)フジワラテクノアート 訪問報告

日本が発展し、私たちが生きていくうえで必要な使命を果たす

～通信インフラを支える技術と醸造を原点に世界で微生物インダストリーの共創～

開催日:2024年1月26日(金)

(株)電研社 代表取締役 野村 明宏 氏

事業内容:電力・通信用機材の製造、及び、販売/本社所在地:大阪府大阪市北区西天満/岡山工場所在地:岡山県津山市金井/創立:1950年/資本金:9,500万円/従業員数:38名



(株)フジワラテクノアート 代表取締役副社長 藤原 加奈 氏

事業内容:醸造機械・食品機械・バイオ関連機器の開発、設計、製造、据付、販売およびプラントエンジニアリング/本社・本社工場所在地:岡山県岡山市北区富吉/創業:1933年/資本金:3,000万円/従業員数:145名



広報委員会のメンバー9名で岡山県にある企業2社を訪問しました。

1社目の訪問は、当研究会の副会長が経営している(株)電研社の岡山工場。私たちの生活に不可欠なインフラ整備を担っている会社です。みなさんが毎日のように見かける電信柱には、いろいろな電線が繋がれています。この中で一番高い位置には電気を配る配電線があり、高電圧の電気が流れています。そしてその配電線の下(概ね電柱の中間位置)には、通信線路の光ファイバーケーブル(以下ケーブル)が通っています。電気は流れていません。このケーブルは強度が弱いので、ケーブルのみで敷設することができません。そのため、電柱間に張ったワイヤーロープでケーブルを支えます。その支えるための部品を「ハンガー」と呼びます。(株)電研社はこのハンガーを製造販売しています。通信会社によってケーブルの敷設位置が異なり、通常一番下にはNTT、その上にはeo光やケーブルテレビのケーブルが位置します。その所有者を色で識別するチューブも製造しています。今まであまり気にせずには過ごしていましたが、これから町を歩くときには、電信柱にかかる電線に目を向けて位置や高さ、支えるために取り付けられているハンガーや識別チューブの色が気になるなあと感じました。

実際にハンガーの製造工程を見せていただきました。部品の材料である塩化ビニールを成形機械にに入れて高温で押し出して成形したあとに冷却し、定尺で切断します。その後、お湯につけて再び柔らかくし金属部品に取り付ける工程があります。この工程は手作業で、熟練の女性パート社員さんが担当していました。何度か自動化を検討したけれども、機械化するよりも手作業の方が早く効率が良いという結果だったそうです。

見学の際には、社員さん全員の丁寧な対応だけでなく、玄関の外まで出て、車が見えなくなるまで私たちを見送ってください、お心遣いに感動しながら工場をあとにしました。

2社目の訪問は、(株)フジワラテクノアートです。醸造メーカーの製造プラントをオーダーメイドで企画設計から生産されていて、みそ、しょうゆ、日本酒、焼酎を生産するために必要な麹(こうじ)を、原材料の素材を生かしながら一度に大量に作れる機械です。国内で生産されている麹(こうじ)の約80%を担っていて、まさに日本の食文化を支えてきた企業であります。

55年前から海外への輸出を始めていて、最近では中国やタイなど、アジアでもともと醸造文化がある国々からプラントの改善を求める需要が増えてきています。世界中でみそやしょうゆなど発酵食品がブームとなってきているため、今後もフジワラテクノアートへの注目が高まることを感じました。微生物のチカラを高度に活用するものづくりをめざして、社内で保有している技術の棚卸しに取り組むことで、2050年へ向けて「醸造を原点に世界で微生物インダストリーを共創する」というビジョンに到達し、社内で世界の食糧危機を解決したいという思いが芽生えました。

このビジョンにたどり着くまで、社員みんなを巻き込んで社内改革に取り組みました。新しいイノベーションを起こしたいと、他の企業よりもいち早くダイバーシティ経営を取り入れることで、岡山へ帰郷してきた優秀な人材を確保することができました。また、女性社員が働きやすい職場にするためにさまざまな制度を整えました。出産・育児休暇を終えて復職した社員が、その後も子どもが小学校を卒業するまで時短勤務が可能となる環境を整えたり、1時間単位で取得できる有給休暇などを採り入れたりしました。

その結果、女性社員の70%が管理職に就いたり、それをめざしたりし、そしてどんな人でも活躍できる場が生まれると個々の能力が発揮できるようになり、それが会社の発展につながるという良い循環が生まれました。

ダイバーシティ経営には女性活躍だけではなく、高齢者や障害を持っている方々も同じように活躍できる場があり、能力が発揮できる環境があります。経営者の仕事は、社員が働きやすく働きがいのある環境を整えてあげることだと藤原さんは考えています。

会社のビジョンと社員個人のビジョンを重ねることを大切にしてい、社員一人ひとりの50年ビジョンを作成しました。一人ひとりの考えに耳を傾けて寄り添う姿勢は、きっと社員には大きな愛情を持ったマザーテレサのように感じられるのではないのでしょうか。そんな温かい落ち着いた雰囲気と柔らかいオーラを感じ、取材を終えた時には、私たちみんなも温かい気持ちになりました。

文:日中経済交流研究会 広報委員会
(株)Pink Rose 廣瀬 みゆき